

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成26年9月18日 (2014.9.18)

【公開番号】特開2013-50763(P2013-50763A)
 【公開日】平成25年3月14日 (2013.3.14)
 【年通号数】公開・登録公報2013-013
 【出願番号】特願2011-186958(P2011-186958)
 【国際特許分類】

G 0 8 B 17/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 8 B 17/00 D

G 0 8 B 17/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成26年7月31日 (2014.7.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

異状を検知して異状発生を示す異状警報音を出力すると共に異状連動信号を他の警報器に送信して警報させる複数の警報器を設けた警報システムに於いて、

前記警報器は、自己の試験指示操作に応じて他の警報器を対象とする音響警報試験を行うことを特徴とする警報システム。

【請求項 2】

請求項 1 記載の警報システムに於いて、試験指示操作を行った前記警報器は、前記音響警報試験として、

警報器自身を試験鳴動させる第 1 モード試験、

警報器以外の他の警報器を順次試験鳴動させる第 2 モード試験、

警報器以外の他の全ての警報器を一斉に試験鳴動させる第 3 モード試験、

警報器自身及び他の全ての警報器を一斉に試験鳴動させる第 4 モード試験、

前記第 1 モード試験乃至第 4 モード試験の少なくともいずれか 2 つを順次行う第 5 モード試験、

の少なくともいずれかを 2 つのモードを順次行うことを特徴とする警報システム。

【請求項 3】

請求項 2 記載の警報システムに於いて、試験指示操作を行った前記警報器は、前記第 2 モード試験に代えて、警報器自身及び他の全ての警報器を順次試験鳴動する第 6 試験モードを行うことを特徴とする警報システム。

【請求項 4】

請求項 2 記載の警報システムに於いて、前記警報器は、自己の操作部による通常試験指示操作とは異なる所定の特殊試験指示操作を検知した場合に、音響警報試験に移行すると共に、当該移行から所定時間以内に前記操作部による通常試験指示操作を検知する毎に、前記第 2 モード試験乃至第 5 モード試験を順次選択し、前記第 1 モード試験乃至第 5 モード試験を選択してから前記所定時間以内に前記通常試験指示操作を検知しない場合は、当

該選択しているモード試験を行うことを特徴とする警報システム。

【請求項 5】

請求項 1 記載の警報システムに於いて、試験指示操作を行った前記警報器は、前記試験鳴動として、連動元を示す異状警報音を所定時間出力させ、一方、他の警報器は、前記試験鳴動として、連動先を示す異状警報音を所定時間出力させることを特徴とする警報システム。

【請求項 6】

請求項 5 記載の警報システムに於いて、前記異状警報音はメッセージ及び警報音を含む所定パターンの警報音であり、前記警報器は、前記試験鳴動として、前記異状警報音の内の音圧測定の対象となる所定箇所を連続して或いは繰返して出力させることを特徴とする警報システム。